

インターバンクの声（2015年10月6日）

週明けの昨日、友人のディーラーが、「米国などの弱い経済指標にも市場が余りドル売りに反応しなくなって来ましたね」と話していた。確かに先週の米経済指標は市場予想を下回るような内容が目立ち、特に雇用統計は非農業部門就業者数の増加が20万人割れどころか、15万人にすら満たなかったにも関わらず、発表直後こそ119円割れまでドルが売り込まれたものの、ニューヨーク市場の終盤には120円に戻ってしまったことには多くの仲間もいぶかしく（疑わしく）思っていた。昨日も米ISM非製造業景況指数が事前予想を下回ったが株価にも影響せず、ドルの売り反応も一時的なものだった。市場に不安材料を提供する中国が国慶節で休場が続いているせいでもあるまいが、市場のリスクセンチメントも米経済指標の軟調傾向の発表が続いているにも関わらず改善傾向だ。夏から続いた中国発の世界的株安も落ち着きを見せ始め、米国の利上げ開始時期が後退したとの見方が影響しているのだろうが、こんな状況は一時的で、静かにドル売り相場が間近に迫っていると信じている市場参加者も多いようだ。明日の日銀会合での追加緩和のサプライズがない前提だが、いましばらくはレンジ相場が続きそうだ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。